

8月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

令和6年8月のD I 値は8指標中、「取引条件」が上昇、「景況」「売上高」「収益状況」「資金繰り」「設備操業度」が下降、「販売価格」、「雇用人数」は横ばいとなった。

2. 県内中小企業の景況の現状

今月は前月に比べて、取引条件はやや好転したが、景況、売上高、収益状況、資金繰り、設備操業度は悪化した。長期にわたり住宅着工の減少、原材料費、電気料金、燃料費の高騰が継続しており、様々な業種において経営を圧迫している。最低賃金の上昇分の価格転嫁が困難であるとの報告もあった。小売業においては、猛暑の影響で販売が伸びていとどの明るい報告もあれば、逆に痛手を受けたとの報告もあった。お盆休みについては、阿波踊りにより売上げが伸びた商店街もあれば、印刷業、貨物運送業においては、営業日の減少により売上げが減少したとの声もあった。

県内金融経済概況によると、徳島県内の需要動向は設備投資が増加しており、個人消費は物価上昇の影響を受けつつも底堅く推移している。住宅投資は弱めの動きとなっており、公共投資は持ち直している状況である。

内閣府経済報告では、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復しているとのこと。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景況の下振れが景況を下押しするリスクとなっている。また物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響にも十分注意する必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

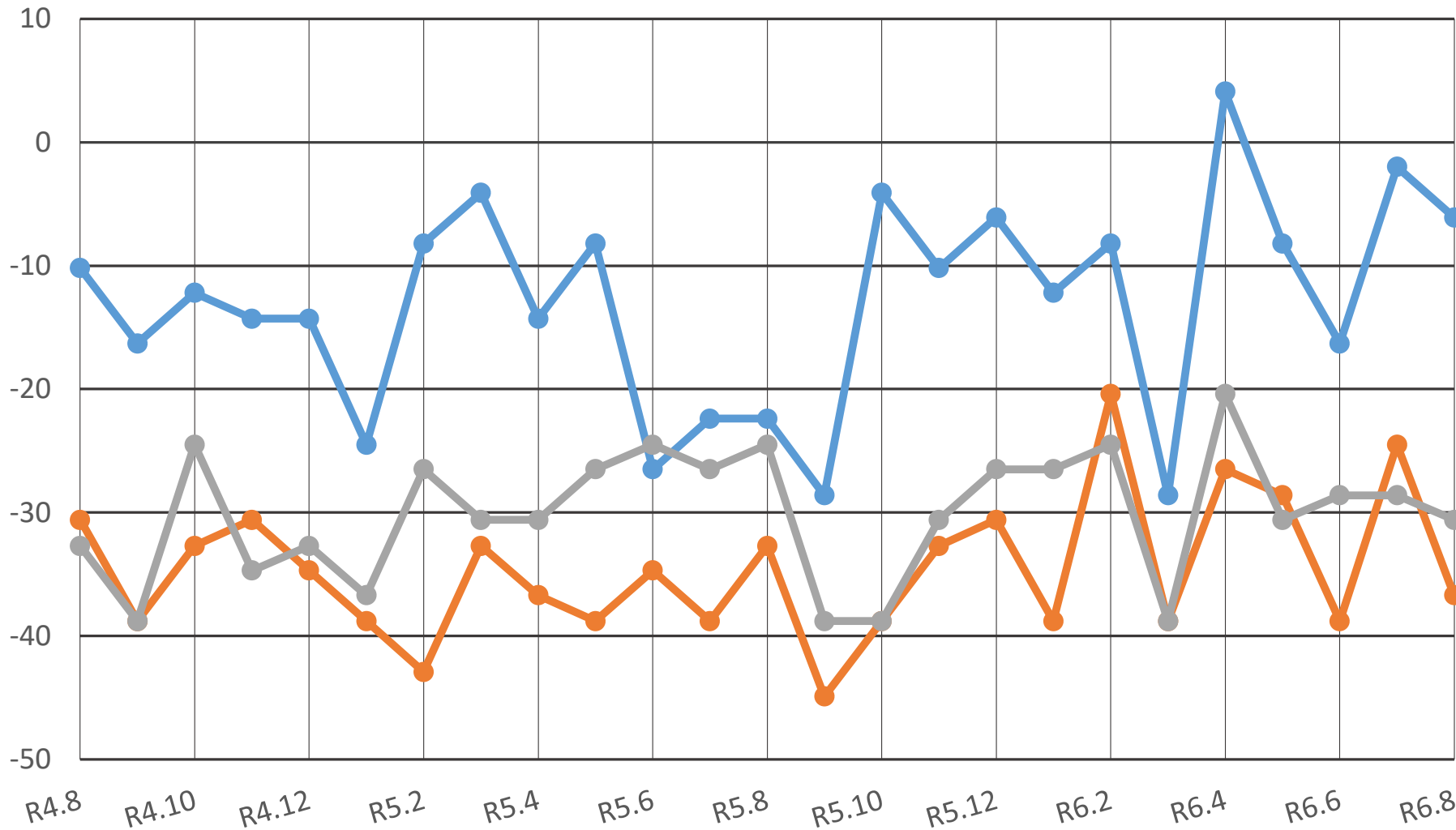
	R5 8月	9月	10月	11月	12月	R6 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比 増減
景況	-24.5	-38.8	-38.8	-30.6	-26.5	-26.5	-24.5	-38.8	-20.4	-30.6	-28.6	-28.6	-30.6	-2.0
売上高	-22.4	-28.6	-4.1	-10.2	-6.1	-12.2	-8.2	-28.6	4.1	-8.2	-16.3	-2.0	-6.1	-4.1
収益状況	-32.7	-44.9	-38.8	-32.7	-30.6	-38.8	-20.4	-38.8	-26.5	-28.6	-38.8	-24.5	-36.7	-12.2
販売価格	30.6	32.7	42.9	38.8	34.7	36.7	26.5	30.6	30.6	28.6	32.7	30.6	30.6	0.0
取引条件	-10.2	-8.2	-10.2	-14.3	-12.2	-10.2	-14.3	-12.2	-10.2	-12.2	-12.2	-12.2	-10.2	2.0
資金繰り	-20.4	-30.6	-28.6	-20.4	-22.4	-26.5	-16.3	-26.5	-16.3	-20.4	-18.4	-12.2	-20.4	-8.2
設備操業度	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-2.0	-8.2	-4.1	-8.2	-10.2	-6.1	-6.1	-6.1	-12.2	-6.1
雇用人員	-2.0	0.0	-4.1	-4.1	-2.0	0.0	0.0	-4.1	2.0	8.2	2.0	2.0	2.0	0.0

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。

徳島県中小企業団体中央会

前年同月比DIの推移

●売上高 ●収益状況 ●景況



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味 噌・前年同月比でみその生産量は104.1%、出荷量は89.6%、前月比ではみその生産量は106.2%、出荷量は104.5%となり、昨年度に比べて出荷量の伸びは落ちてきているが、堅調に推移している。今年度の国産米の調達はなんとか落ち着いたが、新たに原料の加工費や運搬費用が増大してきており、製造コストの増加は止まらず厳しい状況が続く。
2. 漬 物・資材高騰の影響が大きく、利益を大きく圧迫している。最低賃金の上昇幅を注視している。

<繊維・同製品>

3. 縫 製・引き続き、受注数は平準化されない状態には変化が見られない。生産効率の工夫がポイントとなっている。人数的に見て、社員数は充足しているが、手作業も多い工程もあるうえ、納期がタイトであることから、外部委託に頼らざるを得ない現状であるが、諸経費高騰の折から、製造原価も上昇したままである。人材には効率を求めている。価格転嫁については、転嫁しづらい商品群の範疇であるうえ、本年11月目標の支払サイト60日にも該当しないことから、営業利益確保に苦慮している。
4. 縫 製・縫製加工費について材料費や人件費が上がっている中、相手先は工賃アップ交渉に理解を示してくれるが、実際縫製加工費は大幅に下落している。その理由として業界全体の生産調整のため、発注元が値段の安くできる工場に発注する傾向になっている。また、縫製工場同士で仕事を取り合うため、コストの下げ合いが発生し、結果的に単価が下落している。

<木材・木製品>

5. 製 材・例年に比べお盆前後の休みが多く工場等がストップ。さらには迷走台風の影響で8月分出荷が翌月に持ち越されるなど木材の入出荷に影響が出た。市況は横ばいだが、特に外材は需要低迷の時期に値上げにも踏み切れない状況。素材生産は、8月は順調だったが、ここに来て荷動きが悪い。気温が高いのが影響したのか仕事量も減っている様子。
6. 木 材・8月は、円安がほんの少し円高傾向に動いたとはいえ、やはり建築用木材の流通量の伸びが今ひとつで、金額的にやや一段落した程度の状態だったと思われる。
7. 木 材・業界は非常に悪い。新規導入のため前年より良かったが先行き不透明である。

<印刷>

8. 印刷・8月は休みが多く、売上高の少ない月になる。原材料費、エネルギー費と値上げを繰り返している中、比較的価格転嫁が容認されている雰囲気であるが、この度、製紙メーカーから上質紙、コート紙5%以上、ボール紙10%以上の値上げ発表があった。用紙の高騰は印刷市場と経営をじわじわと圧迫してくる。さらなる生産性の向上と付加価値の高い製品の提供が求められる。
9. 印刷・コロナ以前から8月は休みも多く業績の良くない月ではあったが、今年も多く組合員の業績は芳しくなかったようだ。販売価格が上がっているにもかかわらず売上げの減少が続いている。ペーパーレス化の波は止まらず仕事が減少している中、お客様のニーズに答えられる社内体制の構築を進めているが、結果はすぐ出るわけではなく、根気強くやっていくしかないようだ。

<窯業・土石製品>

10. 生コン・8月の出荷量は昨年同月と比べて約49%減少。8月はお盆休みもあり営業日数が少ないうえコンクリート工事の減少で一段と冷え込んだ状況である。コンクリートを使用した官工事の発注も少なく、今年度これまでの出荷量減少を挽回できるとは思えず、非常に見通しが暗い。
11. 生コン・8月の出荷数量は、対前年同月比横這いであった。要因としては既契約分での民間及び公共工事（四国横断自動車道工事等）が予定通り進んだことによる。工場での収益については、価格引き上げにも関わらず、年間を通じて大幅な出荷数量の減少という結果により、経営環境は依然として厳しい。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄鋼・業況感に大きな変化はないもののやや悪化傾向にある。現況においても収益及び設備操業度ともに低調となっている。また、人員不足も重なり厳しい経営状況がまだ暫くは続きそうである。
13. ステンレス・国内外ともに設備投資も含めた企業活動については、大きな動きも少なく一服感が漂いつつある。原材料等の仕入れ価格については高止まりが継続しており、今後も為替の影響や人件費、物流コストのUP等の影響が懸念される。全体的としては、引き続き海外情勢の影響が懸念材料としてあり、まだまだ先行きは不透明である。

<一般機器>

14. 機械金属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、様々な経済社会環境の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、需要の停滞をはじめ、従業員の確保難などが、依然として、経営上困難な課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食糧 卸・持ち越し米（古米）が少なく、全国的に早く新米（令和6年産）を食べ始めることになり、1年間の供給量が心配である。来年は万博が開催され需要が減少することは考えにくく、新米（6年産）のよほどの豊作か、高値による米消費減が無い限り、米の需給は逼迫することが見込まれる。

<小売業>

16. ショッピングセンター・食品・衣料・雑貨ともに好調に推移しています。お盆の集客良かった点が影響していると思います。特に全国展開している大型店が特に売り上げを伸ばしています。
17. ショッピングセンター・館のリニューアル工事の為客数は伸び悩んでいるが、組合員の3分の1の店舗で売上高の前年比が100%を超えてきているので、これから期待したい。
18. 電気機器・今月も猛暑の影響もあり、エアコンは順調であった。しかし映像関連機器はオリンピックがあったものの動きは良くなかった。映像関係は少しずつネットにシフトしていると考えられる。
19. 畳 ・猛暑により、一般家庭用は減少したと思われる。お盆休みがカレンダー上10日程あったところが多かった。下旬は台風の迷走で、予定が9月送りとなった。

<商店街>

20. 徳島市・暑さに加え、後半は台風による臨時休業など大きな痛手となった。
21. 徳島市・阿波踊りがあり、通常より人出が増え、売上げも伸びた。
22. 鳴門市・8月9.10.11日鳴門市阿波踊りが開催された。商店街では無料のフォトスポットを設置し演舞場は大盛況だった。これからは100円商店街、イス1グランプリアンドナイトマルシェ、まちづくりワークショップなど忙しくなってくる。

<サービス業>

23. 自動車整備業・8月度の自動車販売台数は、登録車の中古車販売以外すべて前年度を下回る結果となった。登録車に関しては新車登録が対前年度比6.5%減、軽自動車に関しては中古車登録が5.0%減となり、前年同月を割り込む要因となった。全国的に見ても、8月期の国内新車販売台数は2か月の前年実績割れとなっているようだ。マイナスに転じた主な要因としては、データ試験の不備が見つかったことに伴う一部車種の生産・出荷停止や、生産・出荷を再開したものの生産現場の回復が追い付かず販売が伸び悩んだメーカー、さらには市場全体で新型車の発表が少なかったことなどがあげられる。収益情報の目安とみている継続検査の台数は、データがまだ出しておらず現時点では不明である。
24. 土木建築業・前年同月と比べて、設計人数はほぼ同じであった。人員増加(企業努力)による設備追加により電子機器の在庫数量は増加した。施設投資については、PC本体の更新を官側の動向を見ながら随時更新する。設備操業度については、持ち帰り業務のため、徳島・池田に担当技術員の

事務所を確保し、維持管理費は増加した。雇用人員については、道路・砂防の担当技術員の確保、有資格者の求人応募が少なく人員確保が難しくなる。技術員平均年齢が毎年高進している反面、河川巡視員の無資格技術員の応募が増えているが、やはり有資格者はほとんど応募がない。数年後、資格が必要となるため、社費にて資格修得実施している。

25. ビル管理・前年同期と比べ大きな変化はありません。徳島県の令和6年11月からの最低賃金の目安について、徳島地方最低賃金審議会から980円（昨年度比84円増）で答申されました。この金額で決定されますと労働集約型産業であるビルメンテナンス業界においては、賃金上昇分の価格転嫁が困難な状況が続いている中、今後ますます厳しい経営状況が予想されます。このため、今後も引き続き、粗利率の改善や固定コストの削減等の経営改善に努めるとともに、労務単価や取引価格等を的確に反映した価格転嫁交渉を進める必要があります。

26. 旅行業・旅行業は、日向灘で発生した地震で南海トラフ関連の可能性が報じられ、国より旅行自粛要請もあり、また、台風の影響も受け旅行キャンセルが多かった。県外の方から「徳島は地震はおこらないのか？」などとの問い合わせも多数あった。地方の旅行業廃業が増えている一方、地域ならではの商品開発に取り組むなど、生き残り戦略を模索している。

<建設業>

27. 鉄骨・鉄筋工事業・見積り、仕事量ともに非常に少なく、しかも受注金額の中の材料費の割合が高い。四国は冷え込んでいるという印象。安価受注に走ることなく仕事量を確保することが最重要課題。建物の仕事が少ないので橋梁、設備過大が中心になっている会社もある。

28. 建設業・公共工事は前年同月と比較して国が発注件数、請負金額とも減少している。特に国土交通省徳島河川国道事務所の発注が少ない。県発注工事は増加している。市町村は、発注件数、請負金額とも減少している。

29. 板金工事業・工事件数の減少傾向が続いている。また資材も高騰している。

30. 電気工事業・令和6年8月分の戸建住宅新築件数146件（前年同月比87.4%）

<運輸業>

31. 貨物運送業・例年のことながら、8月はお盆休暇で営業日数の減少と例年にないような高温による影響で売上げは減少した。軽油単価は、前月平均比で約1円強の値下がりとなった。

32. 貨物運送業・お盆休みや、台風10号の影響で、売上減となる。台風10号では、事前の出荷停止や計画運休をした事業者も多く聞かれ、荷主側の理解もすすみ、安全面への対策がしっかり行われている。